

俳諧新五百題

一





秋目錄

柳	秋	花	攝	施	盆	七	立
散	風	火	待	餓	市	夕	秋
木	稻	相	生	墓	盆	星	初
槿	妻	撲	身	參	月	合	秋
菽	霧	御	踊	灯	迎	七	今
		射		籠	火	夕	朝
朝	露	殘	衝	高	迎	貸	文
顏		暑	穴	灯	鐘	小	月
			入	籠		袖	
秋	桐	初	捨	送	魂	盆	天
海	一	嵐	扇	火	祭		川
棠	葉						





女 郎 花	藤 袴	真 葛	秋 草	冬 風	鳩 吹	鈴 虫	墻 螂	烁 蝶	鰕
芭	拈 梗	吾 亦 紅	草 花	西 風	鷹 打	蟬	簑 虫 鳴	秋 螢	鱸
尾 花	鼠 尾 草	露 草	稻 花	葉 生 姜	虫	電 馬	藻 虫 鳴	秋 蚊	鯽
荻	芭 蕉	野 菊	早 稻	紫 蘊	螽 蟻	蝻	蝻	秋 蠅	落 鮎
蘭	葛 花	曼 珠 沙 花	青 瓢	唐 椒	松 虫	蜻 蛉	秋 蟬	鞋	鰓 曳

八 月	八 月	葉 月	八 月	八 月	八 月	八 月	八 月	八 月	八 月
放 生 會	初 月	三 日 月	待 宵	名 月	今 日 月	良 夜 雨	良 夜 蝕	十 六 夜	月 見
雨 月	秋 月	秋 月	秋 月	秋 月	雨 月	秋 月	秋 月	秋 月	秋 月
初 沙	秋 日	秋 日	秋 日	秋 日	初 沙	朝 寒	秋 日	秋 日	秋 日
肌 寒	朝 寒	朝 寒	秋 寒	秋 寒	肌 寒	朝 寒	秋 寒	秋 寒	秋 寒
秋 山	秋 水	秋 水	野 分	秋 暮	秋 山	朝 寒	秋 水	野 分	秋 暮
案 山 子	鳴 子	鳴 子	引 板	漆 水	案 山 子	朝 寒	鳴 子	引 板	漆 水
田 刈	于 稻	于 稻	落 穗	栗 水	田 刈	朝 寒	于 稻	落 穗	栗 水
芋	于 稻	于 稻	落 穗	栗 水	芋	朝 寒	于 稻	落 穗	栗 水
黍	于 稻	于 稻	落 穗	栗 水	黍	朝 寒	于 稻	落 穗	栗 水



野宮別	外市	九月	新余	鴟	雁	藥	秋野	穗	葛
秋	十三夜	重陽	新酒	乙鳥歸	鴨	木賊刈	蕎麥花	刈萱	葛紅葉
雨	後月	菊酒	後	渡鳥	鶉	鹿	蓼花	雞頭	初紅葉
露時雨	名殘月	後	雛	鶴	啄木鳥	鹿一笛	烏凡	紫苑	芙蓉
秋時雨	御遷宮	十日菊		鴿	稻	初雁	木綿摘	花野	木犀
露	霜			蛇入穴	雀				

暮	松	栗	梅	秋
秋	露		嫌	霜
九月	落水	椎	未枯	紅葉
夕	崩	菜	柚	柿紅葉
	篠	蔓		草紅葉
	網代打	通竹實	梨子	菊
	行	茵	木實	
	秋			



冬目錄

火	口	寒	初	夜	冬	翁	十	初
桶	切		雪	時	日	忌	夜	冬
火	巨	牙	冬	松	冬	惠	達	十
鉢	燧		雨	風	夜	比	磨	月
罔	冬	胼	木	初	冬	神	大	神
爐	搆		枯	霜	月	迎	師	無
裏	冬	輝	冬	霜	初	小	御	月
捐	篋		冬	時	時	春	命	主
	埋	爐	冬	雨	雨	小	講	亥
炭	火	閑	枯	時	雨	六	御	猪
電				雨		月	取	
							越	

雁	冬	冬	干	枯	枯	寒	茶	頭	炭
鴨	田	木	菜	蓮	荻	菊	花	巾	
千	冬	冬	葱	麥	枯	石	歸	足	煖
鳥	川	野		蒔	菊	露	花	帛	婆
鳥	水	枯	木	蓋	枯	冬	冬	納	帛
	鳥	野	葉	麥	立	芒	柳	豆	衣
木	鴨	朽	落	大	冬	枯	冬	山	蒲
兔		野	葉	根	草	芒	牡丹	茶	團
	鴛	冬	紅	葉	枯	枯	水	枇	衾
寒	鴛	山	葉	散	芦	尾	仙	把	
苦	鴛					花		花	
鳥	鴛								



鳥	寒	冰	吹	報	吹	霜	杜	鯨	鷓
叫	梅	柱	雪	恩講	草祭	月	蛭	河	鷓
鷹	冬	凍	志	<small>芝居 顏見世</small>	御火燒	冬	網代守	豚	冬
落	椿		卷			至			雀
州									
鷹	鷹	雪	霰	<small>雪</small>	空也忌	髮	柴	饅	冬
力		車				置	清	汁	雁
州									
	鷹	振	霽	雪	鉢	神	夜與引	杜父魚	冬
	狩			見	敲	樂			鳥
		冬	冰	夜	寒念佛	子		生海魚	冬
	煖	梅		雪		祭			蠅
	鳥								

一月錄

大	行	年	煤	年	入	師
晦	年	用	掃	冬	寒	走
日	年	意		立	寒	
	岡	年	餅	春	雨	川
	見	忘	春	追	寒	初
	年	古	水	難	雨	雪
除	年	月	配	於	寒	臘
夜	籠	待	年	賣	月	八
		春	市	節	藥	佛
	歲	待	年	季	吟	名
	暮	來	市	候	乾	事
		春	年	姥	鮭	始
			木	等		

目錄



俳諧新五百題卷之三

田喜葵護物輯

○秋之部

立秋

馬買り小笠ふ秋のく川日く  
陰し桶のく（かき）秋（かき）かき（かき）

白雄

秋の川や火をくつ門のちちち

玉卯

くふの秋まや稲葉のけいの家

申翁

杖立てたくともかなく来く（かき）

三観

初秋

初秋よくくく（かき）燥（かき）のかく  
くつ杖の湯志くくく（かき）小籠（かき）取

笠菴

下



今朝秋

くらやみきりーはらのまきのゆり  
 初はるぬ菰きて通るるのうら  
 うつ秋や稲よ濡るる唐のし  
 飾り菓ふるもささむむやらの秋  
 おうけやうらむらむらむら  
 かきく鯉のうけもきさの株  
 くら秋のれりくと侘ー舟の花  
 然鷹のそそくくやと秋の秋  
 草の中ふ蓮ふく咲て又月る  
 又月のあふくもささむらむら

文月

天川

七夕

ふら月や母の白髪のうらうらき  
 又月の小舟をつー新あふる  
 又月もるむむ町の筑供  
 天の川田今のをささむらむら  
 用もふら舟家おはわその川  
 破ちうくあきそくくく天の川  
 虹のけその川くそ来よは  
 ささくくあふくくやその川  
 七夕や夕うほのむものいそ  
 系巻の父母きー七日の夜

葛三

叙来

丹霞

存義

李川

友國

東李

護物

みん

牛心

瑞馬

菊塙

護物

乙因

弓雄

乙彦

樂水

樺白

のち里

篤光



星合

七夕や芒おのえく川むくひ

茶静

雲のくハ風のすくおうにりの雲

乙二

星合や雲く出てるは雲の人

まこ

新くはもくけらや早よ麻く結

一愠

川鱈も早まらつ魚々芒のくハ

南井

けい合や雲けり掬く鞠くは

菊塙

七夕雨

かぬの尾もかつく星のる

雪八

白くかくく鳥のるやや来ぬく

初男

けいのる舟流くくくしり取

何れ

貸小袖

早よかしてせぬくはり裸くか

宗雨

盆

くくくや梅下くくかハ袖

崇兆

障るよせえてぬく人貸小袖

訓山

人くつて雲よハハハハ盆くく取

春鴻

ワくくハハハハハハハハ盆あみさ

土朗

草のくハ油くけくハハハ盆り膏

詠掃

けくハハハハハハハハハハ盆くく

洞々

盆市

くくハハハハハハハハハハ盆用く

舎長

くくハハハハハハハハハハ盆供く

聚手

草市や盆くくハハハハハハ盆

雪雄

くくハハハハハハハハハハ盆用く

くハ



盆月

盆の月入の中云のほろく  
 筆くくの市の家くく盆の月  
 大星の影もくや盆の月  
 昔父入るはのえい盆の月  
 近少や少娘へひけく月  
 ひのほや乗らうえてくぬ家  
 近少や樹もく物のほまつ  
 ひく火や山根をさる草の如く  
 近少くらくく入や障の色  
 月くくくくくくくくくく

澧水

みち彦

時雨

石芝

鳥所

古彦

掉歌

真夜

秋耳

双湖

迎火

迎鐘

魂祭

施餓鬼

うい海よりてハおくれとひくし待  
 ちくえそハ涼しく森よ近く待  
 鬼柳やくの世り果も葉の露  
 ありまのまゝ夜蒼む女郎花  
 鬼柳の癖もさほはる夜明  
 陰も盆のけりくくくく  
 瓢箪も子供のくくくく  
 施餓鬼の秋は去くやのやう  
 七夕のそりくまきよの施餓鬼  
 単衣の蟬施餓鬼の解ふ夏も

成之

護物

士朗

真娘

季道

松夫

琴女

宗居

吾亮

鷗里







生身魂

翌々々ぬりぬり故りぬ生身魂  
遊々勢の油もそれう生身魂  
文貫

護物

踊

ゆくゆく大のふ所越てま  
舞れゆく踊の中を踊りゆく  
無一

蘆村

呼合てもゆる踊りゆくゆく  
周もかき中か世界や盆舞を  
無一

江川

衝突入

はく入やこハ奇を伝る面ゆくち  
ほく入や赤も赤くく小盆  
存義

冷氷

捨扇

一杯の葉もわめくく扇かく  
扇を彩やとととと扇の色  
光浪

乙二

折み折糸の伝と扇や捨扇  
菊後

花火

月うけや扇やとととと草の宿  
玉珂

一雨

中くくくつら果は花ゆく  
義香

義香

雨雲のさく浦田の急ゆくか  
兔水

兔水

後よの、花ももろか仕を  
雨屯

雨屯

これとと人いろゆる世ふき花ゆく  
菊塙

菊塙

水ととくもや急火の下ゆく  
花陶

花陶

角カ

下

六



御射山祭

かき誇りおともを舞ふを果 お撲  
投く罪々白髪よあやうきまひん  
うさし里のよちをよ云あや用かくる  
笑をもつふの海一さやあか丸  
赤村山やまのよハ芒 けいり  
神一をのこむく尺えぬ穂を作  
子も寝もあはれまをく穂赤花  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
山抱子の花をえけり一穂早く  
蜀黍のむつーけある穂早く

挂枝  
五陵  
素撲  
曲阿  
闌更  
車蓋  
石芝  
石芝  
首三  
寒松

残暑

初嵐

草稈の田もよみけむ紗暑く水  
照かき日もちほをよ初嵐  
門限のほもよつらつら嵐  
かき初め利きやも初あき  
さつ嵐いとよ小貝の口くく  
けちめくくくくくくくくくく  
秋もくぬおの葉よいよあき  
秋もくぬおの葉よいよあき  
先書、柴折、考や娘のうせ  
秋風やあきくくくく筆のさや

護物  
嘯山  
今彦  
涼濤  
奇石  
炉扇  
乙二  
秀  
大常  
梅間

下  
六







柳散

柳一葉も手くおき人さ似し  
 風谷  
 厚鴨の足らみしりちり柳  
 蘭  
 黄昏や皆しりちり柳  
 東一  
 多しきもちりちり柳散  
 其行  
 見る人ちりちり柳散  
 玉珂  
 柳ちりちり江の日にす  
 ちり  
 日ハ花の中ちりちり木槿  
 五明  
 ちりちり火さるちりちり木槿  
 宜啓  
 ちりちり来て咲ぬ小るの夕木槿  
 巨氷  
 ちりちり後ハちりちり木槿  
 呂律

木槿

萩

朝顔

およせて花のささよ白木槿  
 ちり雄  
 夜の音ちりちり門の萩  
 遅月  
 浪よちり萩ちりちり秋をさす  
 篇雪  
 ちりちりちりちり萩のそ  
 寸陽  
 ちりちりちりちり萩のそ  
 里外  
 朝の月やちりちり萩のそ  
 渡菊  
 朝白の翌のちりちり萩のそ  
 雑周  
 朝の月やちりちり萩のそ  
 五蓮  
 朝の月やちりちり萩のそ  
 蓬柳











葛花

嵐屋まのや 葉を撰ずる 竈の口 宇橋  
 介とまきわ いらの 比人 今 夢ひ 夕 彦南  
 こまは 茨の 葉と 水 鶴も 虫を 之よ 文貫  
 崩屋 竹や 比も けいぬ 水 の 渡 双湖  
 破る 葉を らん の かく も の くら 博良  
 芭蕉 葉よ の まを 金く けいぬ 烏頂  
 吹く へく 夕 けいぬ 芭蕉 けいぬ 晋和  
 大や けいぬ 竹よ 芭蕉 の けいぬ 氣文  
 昔天 けいぬ けいぬ 芭蕉 龜山  
 うせ けいぬ 芭蕉 の けいぬ おもて 且く

真葛

雨をよよ 小ま 比や 葛の花 竹馬  
 かく けいぬ の 手ハ 倒 色く 葛の花 曉河  
 よよ けいぬ 口 小ま 葉 けいぬ 葛の花 古玄  
 葛の 葉の 恨 けいぬ 白 けいぬ 細 蕪村  
 葛の 葉の けいぬ けいぬ ぬ 林ハ 魚 けいぬ みる 彦  
 葛の 葉よ けいぬ けいぬ 出 けいぬ 蝶の 売 さくら 雄  
 けいぬ けいぬ けいぬ けいぬ けいぬ 高 けいぬ 八朗  
 大 粒よ けいぬ けいぬ けいぬ けいぬ けいぬ 杜影  
 昔 亦 けいぬ けいぬ けいぬ けいぬ けいぬ けいぬ 圃亭  
 谷 けいぬ けいぬ けいぬ けいぬ けいぬ けいぬ 米室

吾亦紅

下

世



露草

雪子さへ死しては川に流るれり  
クハ草も死しては草かや昔亦死  
虫はくさやけは心なき道ゆく  
は中まの葉を消しう夜のそ  
中まの葉を枯らぬ楓の影を  
草の草は物々しげのふは区  
雪の川の水は遠きくは日そ  
川はくさやけや昔亦くさやけ  
草を死しては草かや昔亦死  
さへはもて草を植へて草は

三毛彦  
杜英  
保吉  
蘭更  
扇賀  
美山  
ちん  
みん彦  
掉歌  
盡風

野菊

蔓珠沙花

粟稗は咲きしる中菊うね  
中菊は咲きしる中菊うね  
は人志ゆきふはくさく持ぬ也  
泡のふは理をくさく蔓珠沙花  
山伏の山の道はむ蔓珠沙花  
秋のくさく人をかぬはかきほ  
さきくさくははははははははは  
益氣のくさくはははははははは  
茶の戸はくさくははははははは  
さきくさくはははははははは

雀角  
了了  
乙二  
玉光  
宇橋  
葛三  
微席  
濂川  
茶静  
子代

秋草

下

世



草花

蜻蛉のまゝさへ一くあつぬ軒の糸  
畑の草も花の咲くころ  
苗をよする兔の巣も草の糸  
軒のむねの糸一そへて  
岸もやよも集え一軒の花  
ふる人のほまをさぐれ稲の糸  
草の枝もあはれ合はる稲の花  
早稲の果もいへる稲の花  
香のまじりてくつきの糸も  
雷のたけくははれ一いひの花

乙二 菊女 鱗く 笙く 岸芦 吐月 菊所 二風 長翠

稲花

早稲

昔歌

冬 瓜

よさ里や門口あてて早稲日和

梨木公羽

早稲のまじりてくつきの糸も

時喜雨

早稲のまじりてくつきの糸も

宜彦

早稲のまじりてくつきの糸も

鳥命

早稲のまじりてくつきの糸も

蘭更

早稲のまじりてくつきの糸も

左琴

早稲のまじりてくつきの糸も

夢南

早稲のまじりてくつきの糸も

國村

早稲のまじりてくつきの糸も

芳居

早稲のまじりてくつきの糸も

白雄

下

古



西 凡

あ抜きしんくうまへ ちり汁  
あしりのあしぬ、味とちり汁  
るうちよ地窓出まゝるちり汁  
用はよし西凡をよやま縄くま  
鞍赤し西凡をよや疾く馬  
ちりも煎斗かちりぬ西凡  
屋々月子似くちり西凡の切跡  
葉生善やちりまゝるちり酒のちり  
葉生善や救きしり此の酒は  
紫生善や救きしり此の酒は

三三彦  
双湖  
雉啄  
みち彦  
足彦  
夢南  
如山  
白雄  
一蕙  
可磨

葉生善

紫 蕨

小ちりくちりくちり紫蕨畑  
ちりくちり地を這くちりちり花  
ちりくちりくちりちりちり  
ちりくちりちりちりちり畑  
ちりくちり紫をたちりちり  
ちりくちりちりちりちり  
ちりくちりちりちり唐  
唐くちりくちりくちり

宗讚  
善ち彦  
何九  
杜英  
文貫  
撲川  
蕪村  
貯江  
壺山  
茶靜

唐 椒











蟬 蟬

りさくさく蟬の鳴る小溝りか  
ちちくさく胡麻売のこころんほい  
枝竹や盆供のきくさくさく付て  
らんほいやはを細虫のけの涙  
引よきて觸蟬しつぬ下りる  
蟬のなき子しるさく早しうか  
さくさくい蟬のくる笛ふか  
蟬のこころいこころい草は這ふ  
くはさくさく蟬のけのこころい  
子の虫ハ東山子のけのこころい

一蕙  
一岫  
柳起  
護物  
みち夜  
掉歌  
輪之  
き寸  
千河  
重厚

藻虫鳴

藻虫の鳴る藻のけのこころい  
子の虫をさくや夏の古ひや  
このこころい果もさくさくさく  
藻虫の鳴る藻のけのこころい  
さくさくさくさくさく藻のけ  
このこころい水の藻をさくさく  
けのこころいさくさくさく藻  
さくさくさくさくさく藻のけ  
藻の夕くけのけのこころい  
さくさくさくさくさく藻のけ

可都里  
呉友  
輪之  
扇賀  
掉歌  
石馬  
枕生  
蝶夢  
みち夜  
首三

鯛

下

六



秋 蟬

柳やこえさくまての萩の影  
はくくや草薙きぬけの月  
松の影も清くはくはくはく  
千代ののやもあはれはのね  
蟬のせも強きもくえを日けは  
まみしうまもあそびはのね  
糸糸の低きもゆきやのね  
地へはくはくはくはくはくはく  
用はあそびはくはくはくはく  
もとあそびはくはくはくはく

木海  
輪之  
青蘿  
守一  
東一  
楚挺  
了ん女  
雁路  
青樹  
李翠

秋 蝶

秋 螢

海切のこもあそび草や杖のこも  
煉りてふれはくはくはくはく  
秋ふくや稲葉の螢をわくはく  
宝珠はくはくはくはくはくはく  
川流やむゆはくはくはくはく  
ワカ散のほくはくはくはくはく  
杖の蚊やいふはくはくはくはく  
うけはくはくはくはくはくはく  
朝白のうけはくはくはくはくはく  
蟬もはくはくはくはくはくはく

九白鼻  
石雄  
分彦  
掉歌  
九二  
蘭更  
文芝  
一宵  
曉臺

秋 蠅

下

心



初 鞋

焔の幅夜をらめあうをみん  
 子はくむを西もこくくく  
 ちたひし人もほろよはめく  
 くり鞋上里の糸日定たき孝  
 初鞋や萩の小家もよひ日和  
 くり子の表と双きんはほろど  
 くらくらやむくけいよあき孝の表  
 かうやもほろひものく靴つ  
 百もよや夕月よ花む靴つこ  
 萩のけをさるるよ死すもや

春鴻  
 詠帰  
 竹馬  
 得雨  
 さくら雄  
 宇橋  
 一肖  
 太無  
 宗護  
 ころ度

躰 躰

鞆

初人よ並らく河原中夜うか  
 給まゆく夕のそやねりう  
 押水お女はくくく  
 畑校ハ夜の所連く  
 管くけやうくくつ月の夜よ  
 夜行くや夜を人知る淵の鮎  
 花の鮎をほろよしそ落く  
 秋の鮎も葉上流まきる水く  
 鮎の脊や表くをくくは  
 枯涼く鮎もくく山のかし

關東  
 葛三  
 万井  
 杜蓼  
 万寿友  
 白雄  
 保吉  
 春谷  
 双湖  
 太郎彦



鰯曳

ひねりてくまをくはくいりて  
らあめくやひのののれり  
か鰯の味はくまや月え色  
川そえは細や鰯をくはくは

万和 李尺 梅壽 文貫

八月

八月やゆきものまぬ海つら  
八月の二日八月とくまのり  
八月や起て坂帳つる夜も情  
八月と結よいてぬきもふら  
字かきつる思をむる葉もく

存阿 浦人 掉歌 壺半

八朔

あめりくは風まてくまの入葉月  
くまの女々 惟子まきき葉月  
八朔や旅ハ旅をくまのむき  
八さくや船初をの打はく  
八朔の越を川の町の寺  
八朔のゆきものまぬ海つら  
八朔や掃除くまの雀堂  
唄は丘尼もの門をくまのり  
橋のまのけ免くや田面り日  
油さくまのまぬあや秋暮入

文貫 里芝女 曉は臺 春鴻 未木 鶯溪 芳居 春鴻 夕房 芝得

田面日

秋彼岸

下

上



放生會

漁は薄の實をすくはば 彼岸に  
 包う推のふか海に 彼岸に  
 松言し一月夜鶴も 放生會  
 おうて牛も馬も 放生會  
 立はぬ鳥のあふと 放生會  
 放し鳥をくちかす 放生會  
 そましくよつて去りし 放生會  
 との月や舟を舟のふりきき  
 初月の趣向はる人路り  
 麻糸さし水のわたりや 初月夜  
 龜大 南井 白雄 竹世 一泉 茶靜 一蕙 嵐夫 宇橋 東哉

初月

三日月

待宵

二葉草よまつり 舟や初月夜  
 くら月や小舟のこゆる 所をうも  
 三日月はいつも 妙きのおこり  
 くら望みのくまき 二日の月  
 黄昏を透し 鳥を二日の月  
 え角力こそ 梅は二日の月  
 柳の葉は 懐心あふ 二日の月  
 夕川 宵に 暁の 暁に 迷ひふ  
 待どむと 目も けぬ 古の 葉  
 待宵や 月さし 舟の 了り 輪  
 芝得 草夫 士朗 素葉 其行 天光 卯夫 保吉 今夜 輪之



付香のらゆ〜 珍を〜 与人

ま川や月やま〜 ちのあき 兔 罘 五 繩

名月 名月や夜ハ人すまぬ 峰の糸を 燕村

名月やま〜 ちのあき 野渡

名月やま〜 ちのあき 烏章

名月やま〜 ちのあき 雪彦

名月やま〜 ちのあき 白居

今日月 古寺の〜 白居

名月やま〜 ちのあき 麥典

名月やま〜 ちのあき 土朗

良夜雨

始々〜 有〜 け〜 月 月化

出迎〜 ぬ〜 け〜 月 茶静

名月わ〜 け〜 月 土朗

名月の白〜 け〜 雨 可都里

月〜 け〜 け〜 月 乙二

月〜 け〜 け〜 月 素龍

濡〜 出〜 け〜 月 護物

良夜蝕

さ〜 け〜 け〜 月 蝕 北冥

蝕〜 け〜 け〜 月 孤山

蝕〜 け〜 け〜 月 護物







秋月

あふらふ夜はかろきくし秋の月  
入おとんはくしきくし秋の月  
生ぬるる日ハ忘るぬれ秋の月  
おもひのせきとくしつは秋の月  
深しぬれ文る昔の秋の月  
月の秋池のむしつるし秋の月  
田よきの居ありむはよ月の秋  
兔笛くくはくくし月の秋  
花くくしはくくし月の秋  
初はくくしはくくし月の秋

雄渕  
乙彦  
藤文  
宜彦  
歌二  
みら彦  
周里  
一首  
護牧  
春鴻

月秋

駒牽

駒迎

駒ひきのまじりくし月の秋  
駒曳や由まをくしは昔くくしは  
くは駒の屏もよ鏡をくしは  
駒曳やいくしは近頃の夕くくしは  
はくくしはの里まくくしは  
駒色花守くくしは  
皆すれをくしは  
くしはの夕や中まの夕くくしは  
初夕まの夕くくしは  
くしはの夕や芒くくしは

淋山  
玉光  
春葦  
一肖  
太無  
井丸  
茶静  
棹歌  
雉扇  
蟠

初夕







肌寒

乃白のくくくむきや夜まの光  
泣掃しの流るまのくあきく免く  
新くくく肌まきき夜の杜く如  
肌まや免も免く夜の蝶  
くくま免く免を枝のかくく  
肌まや人も免く免く疏黄小  
厚風呂のくくくくく肌まき  
朝寒の万年まきくくは零く如  
朝まやまきくくくく水ぶく田  
朝まきくく日新もてまき糸の陸

梅壽  
梅塙  
闌更  
春鴻  
真篔  
樂只  
梅壽  
武山  
足女  
掃石

朝寒

秋寒

露寒

秋雲

朝まきや氷のわくくくハく如柳  
蝶まきくくくくくくくくく  
朝まきや山くくくくくくくく  
く朝日まかかめく蝶のまき  
秋まきの朝まきくくくく  
朝まきくくくくくくくく  
露まきくくくくくくくく  
はゆまきくくくくくくく  
朝海老のまきくくくくく  
くくくくくくくくくくく

東岬  
掉歌  
万丸  
石芝  
茶静  
く免  
清風  
太即夜  
茶静  
吳山



秋山

秋水

一筋の如く来りし 夜のそ  
 持控し 掃くうらや 秋の雲  
 友情のそをえけや 杖のそ  
 杖の雪 越の町を通り  
 かきこふる 海を 越して 杖の山  
 の川が 下り 雪を 越して 杖の山  
 杖の山 豆の眼さし おろり  
 白木の山を 越して 杖の山  
 人を 越して 杖の山  
 波の 限を 越して 杖の山

豊前 萬里  
 梅笑  
 麻直  
 宇橋  
 騏道  
 菊也  
 乙二  
 野松  
 玉光  
 猿丸

野分

秋夕

しやうや 大英ささき 江  
 子をかよのそを 越して 杖の山  
 夕の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の  
 掃の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の  
 市人の 夜を 越して 杖の山  
 とき 越して 杖の山  
 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の  
 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の  
 稲妻の 杖の 杖の 杖の 杖の 杖の  
 持りて 寺の 杖の 杖の 杖の 杖の

鳥明  
 榊堂  
 菊塙  
 一肖  
 燕村  
 春鴻  
 葛三  
 乙二  
 雨塘  
 無説







漆水

道々ふも旅々も引板の音  
あふも峰々も引板の音  
山の積も遠き夜はや引板の音  
引板の音も小里の人の音  
おふも水あふも月の中  
おふも水あふも月の中  
おふも水あふも月の中  
おふも水あふも月の中  
おふも水あふも月の中  
おふも水あふも月の中

應 嵐  
末 石  
菊 塙  
護 物  
白 雄  
乙 二  
弁 六  
千 影  
得 兩  
北 岱

稻

稻の白ひてり川を  
養の竹ももりぬ稲むし  
老ねの来り人な似る稲の  
あ田刈や水あふも身  
外物や芙蓉のちも門並  
稲うももりや柳の  
稲うももりや柳の  
稲うももりや柳の  
稲うももりや柳の  
稲うももりや柳の  
稲うももりや柳の

音 峰  
禾 木  
栄 枝  
關 東  
も 彦  
笛 子  
兩 木  
士 朗  
馬 印  
表 丁

田刈

予 稻

山里や予稻ももり月の色



落穂

稲下はや人の通る、穂のたぶ  
落穂抄は口のわくく人らゆき  
神のまゝに採るの落穂年安  
先さむし落穂よりる宵のる  
船風のおち穂をくくし舟  
ゆきゆきハ伏せまもる落穂か  
粟畑へのをまけいや山のほ  
山里や穂も通きに粟を干し  
穂の床ふかしの月夜や粟島  
穂をせりく粟やまのふのるのみ

晋峰  
燕村  
保吉  
宗讚  
竹馬  
か  
多つ  
冬彦  
一蕙  
呂水  
茶静

粟

黍

芋

零餘子

黍一穂あをりし青の枝形戸は  
黍少きや芋もくすやまのゆき  
お陸知ぬち山平や黍をよ  
家鬼の縄張をくし黍を  
尻尾の坂をくす芋の葉を  
暮舟をくす芋持ては舟の店  
麻売の美よくさくし芋子  
芋かいら白くさくす具足  
雀類もくく色もくくむく  
粟のやなをくくむくく

狐山  
曉河  
草夫  
雪幸  
泉兆  
乙二  
冥  
輪  
多  
撰堂

下

上



柿

臨買に出る片番のむく  
拵る〜價も里の勢  
本さくの柿の赤さよ尻う菴  
筆拵の墨の付るさ子う  
も柿の落る〜ぬ墨  
柿〜人里とく〜け  
作ちの秋ハ熟柿  
空を〜柿〜熟柿の思  
吾〜柿〜柿の徑  
裏〜柿〜柿の

雪橙 保吉 敬義 春葦 如毛 百丈 夢南 後六呂 乙因 完来

熟柿

葛

久〜葛〜葛の  
片の〜葛〜葛の  
〜葛〜葛の  
〜葛〜葛の  
〜葛〜葛の  
〜葛〜葛の  
〜葛〜葛の  
〜葛〜葛の  
〜葛〜葛の  
〜葛〜葛の

茶辭 玉光 春雄 春鴻 羅文 眞辰 袁丁 蕉雨 女 龜丈

葛紅葉

初紅葉



芙蓉

竹の子のちめくしーさー和ら菜  
立いて、芙蓉の洞じりく何人  
をくくあゝ芙蓉口のむの夕くぬ  
夏、竹の子はほろむやちる芙蓉  
乙るやいふぬやや芙蓉さく  
芙蓉さくしー秋さくむとさくぬ  
木犀のむふ歌あき 白ひくぬ  
白つものくぬ木犀よくくまは  
もの羽うせ木犀さくしー考のきき  
あゝあゝ畑の杜らよ白き粒さく

徳 芦

木 犀

竹里  
白雄  
年六  
冬六  
應  
彌六  
一愷  
竹馬  
太母

刈 萱

芦の穂をかえさくく 月夜さ  
むく芦や秋さくしー面の穂よくは  
小酒屋の口くけさぬぬしーのふ  
谷くく粒芦をのむく 粒の雲  
中路の面刈萱はくくその色よ  
刈萱の片垣芙蓉むむ夕う那  
くくくやのくくくくやふたふら  
刈萱の下這ふるのくくく  
刈萱や山の白らーむむく曇  
鈴のくやまきくくくくく

雞 頭

松兄  
扇和  
鹿太  
岸根  
曉臺  
士朗  
表丁  
杜蓼  
炉扇  
音蘿

下

三三



花野

彩霞にまても只存勢雀の形  
夕ぐけのやもす朝や葉のひら  
新緑や 洒落 流ふ 夕の中  
あきまぬ時く 畑や 鶏 臥 息  
いづれく 風 吹く 世 草 花 丸  
肉 前 了 以 ち 下 下 下 下 下 下  
花 上 葉 上 夕 日 下 下 下 下 下  
朝 の 日 下 下 下 下 下 下 下 下  
酒 舟 の 夜 下 下 下 下 下 下 下  
席 杖 上 下 下 下 下 下 下 下

雪度 具翠 采砂 雪雄 秋菜 里丸 冷水 春鴻

紫苑

秋野

牡丹系の牛より下下下下下下  
世をそよよのや 茶ゆりの 落 葉  
うち け け け 風 の 袖 ぞ 花 舟 下  
新 夜 下 下 下 下 下 下 下 下  
あきのや や 夕 下 下 下 下 下  
秋のや や 夕 下 下 下 下 下  
朝のや や 夕 下 下 下 下 下  
村のや や 夕 下 下 下 下 下  
宿とくふおけや 茶 葉 の 花 舟 下  
夜とくふおけや 茶 葉 の 花 舟 下

乙因 竹吾 壺羊 月鴻 保吉 可都里 秀哉 茶静 椿堂 午殊

蕎麥花

下

三



蓼花

みそと藤とておふ山家やははりま  
大いふの畑一軒や蓼花のま  
そふのふ木のふ山もまふ海  
大蓼のなを伸く花赤  
傘さしとやまふとふ蓼のま  
笠まぬくふのつらまふ蓼の花  
むくふとふとふとふとふとふ  
三日月のけきとて入や鳥凡  
ちまふとて一ふ蓼のなや鳥凡  
郎とまふとふとふとふとふ

孫彦  
伯世  
東我  
藤壽  
右雄  
孤山  
おはふ  
廣陵  
天民  
利根吉

鳥凡

木綿摘

佛も初特とてあやふあ珍  
世のなをと苦やむとふ木綿  
塊の角まふとてふ木綿摘  
花ふのたふとてふとて鳥  
茶も人いふとてふとて鳥  
根もあふとてふとて鳥  
山人や老のちとてふ木綿  
けき木ハ福とてふとて木綿  
馬ふとてふとてふとて木綿  
火のけきとてふとてふとて木綿

乙二  
輕舟  
一肖  
其翠  
大江丸  
暁河  
壽翁  
啓山  
一菜  
来鉅

薬堀

木賊刈

鹿

下

三







鶉

夕雲のくもくはや晴のくも  
 二度と七時くら草おゆき  
 野突てあきまむ人も老より  
 鶉おくゆや桿枝よすむる  
 夕月や草むらうなく鶉  
 貞徳の富の鶉を吟う  
 日ハ草のえんまうく啼鶉  
 吟出てやまぬうくそ鶉  
 本つきの月お鶉くはるう  
 赤はまのあまうく夕月お

斗圍 南井 茶静 掉歌 江水 蕉雨 喜山 袁丁 樺堂 乙二

啄木鳥

稻雀

あつきのくもくはや晴のくも  
 本啄鳥の鶉のくもくは  
 うはまのくもくは出くも  
 焔あくく聖日ハまうめ  
 稲くもくはくくはくも  
 似くもくはくもくはくも  
 ぶき人よまを鶉ひぬ  
 稲おくく雀よ出たの日の出  
 ねくもくはくもくはくも  
 鶉あくもくはくもくはくも

月化 茶静 李尺 士朗 孤山 太昂 叔露 太郎彦 闌更 完未

鶉



乙鳥帰

野も庭も月夜もあやや寝中も  
水うけのあやもよあやねの  
山越やあやもよあや百舌もあや  
秋うけのあやもよあや帰る乙鳥も  
枯もあやもよあや帰る乙鳥も  
まはりのあやもよあやゆきも  
蜀黍もあやもよあやゆきも  
横雪もあやもよあやゆきも  
ゆきもあやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも

ノ且  
可九  
ちりき  
泉九  
草均  
七越  
みり夜  
栄枝  
若凌  
明良

渡鳥

あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも

柳美  
表丁  
宇橋  
三化  
直也  
一月  
電河  
喜集

鶴鴿

あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも

電河  
喜集  
一月  
直也  
三化  
宇橋  
表丁  
柳美

蛇入穴

あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも

喜集  
一月  
直也  
三化  
宇橋  
表丁  
柳美

新米

あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも  
あやもよあやゆきも

喜集  
一月  
直也  
三化  
宇橋  
表丁  
柳美



新酒

新米や替らうすも朝の七弦  
 き免て訪の揚るにけおく酒  
 阿ふけくそまおくくく酒  
 里並や坊ゆふ寺のそく酒  
 染てらる枯くハ部ぬく年酒  
 授飯の豫くそく年酒  
 東ふじ枝うらうくも九月ど  
 兼月や走くあハく夜のを  
 相さき山の九月く成りく

寒多松

灑陵

春鴻

恒九

光浪

玉珂

五和

梅一

真嵐

九月

重陽

移すきよ日のゆくも九月ど  
 菖ろもあつてまく九月うけ  
 海の子のそれまよふの菊  
 馬の屋もくあけ九月九日  
 浴中もむくく漏りく菊の酒  
 きくの酒醒くそまふく

茶辭

士朗

みく彦

乙二

とら彦

菊酒

後難

柿の葉を子供ははく色にの終  
 出を給ハ古くもくはの酒  
 かしはん終や其世帯のさくも  
 ちはよくもくもく菊の十日うけ

蘭更

詠帰

瘦菊

明石

李翠

十日菊

下

九



殊市

酒造の酒ふるるにや十日葉 玉蓬  
 後ろ看るるも初ぬ十日菊 得阿  
 かまへし十日くありぬまきの菊 瘦菊  
 糸市とまらけ後ろめ五郎古ま みる彦  
 糸まも月花年する糸ゆくと 孤山  
 杉鉢もゆいあめりり市の糸 さら雄  
 山たもまらけり節も糸の糸 土升  
 備しとまらけの糸やまのいとま 古か  
 まらけの月も極えつ十日之夜 士朗  
 裏園のうらふ早し十日之夜 上峯

二三夜

后月

月くやあしやまじ十日之夜 太節  
 空ふらほやるの萍の十日之夜 夢南  
 くつ家の月と挿扱や十日之夜 護物  
 こやまらけりやの月 首三  
 昔むくもまらけり入まの月 可都里  
 居酒のむらもあまぬ月の月 菊所  
 月の月地蔵を家の夢の月 茶静  
 鵜飼の孫もうけもてのちの月 谿翁  
 月まらけるのちのちの月 樽良  
 月の文抄まらけり子孫さぬ 太無

名残月

下

上



御遷宮

はたすもれも月之余波を

土朗

と船の旭を川に似せしは近き

白雄

鶴の舌はくもくさよひ近き

淡水

野宮別

夢のまはれはくさよひ近き

詠歸

夢のまはれはくさよひ近き

護物

秋 雨

火のりくても夜もあまむる

卧史

枕鶴の寂あつてもやのちのる

流芝

山川ハ霧子濁るるのちも

雉扇

くさけもくさけもくさけも

瘦菊

大汐の川口くさけもくさけも

玄蛙

露時雨

花のくさけもくさけもくさけも

闌更

花のくさけもくさけもくさけも

得雨

花のくさけもくさけもくさけも

露竹

花のくさけもくさけもくさけも

子侍

秋時雨

花のくさけもくさけもくさけも

王光

花のくさけもくさけもくさけも

乙因

花のくさけもくさけもくさけも

士朗

花のくさけもくさけもくさけも

九朴

花のくさけもくさけもくさけも

護物

露 霜

花のくさけもくさけもくさけも

騏道



秋霜

夜の露や妻の衣のくは 茶静  
 赤の雲や杓杞の杉根の血刺穴 未同  
 片の雲やおのほほよとくく 一宵  
 横の霞は秋の雲をむむと蟹の南 春鴻  
 うき竹の骨をむむと秋の雲 嵐丈  
 雁鴨くもの谷合くく 守三  
 草の露の糸くもいとくあそこの雲 女 小鷹  
 鯛の雲の首くもいとくあそこの雲 三巴  
 紅葉の似地所をくく 女 三巴  
 もみらすくく 女 三巴

紅葉

柿の葉

生鯉の大ききくもくくもみらすく 天画  
 お葉くく日りの照くくく 楓月  
 知ぬ人もくくくくく 女 小鷹  
 菊の連くくくくく 女 小鷹  
 田のくくくくく 女 小鷹  
 笑ひ合ふ隣もくくく 女 小鷹  
 秋の雲のくくくくく 女 小鷹  
 小のくくくくく 女 小鷹  
 本免のくくくくく 女 小鷹  
 山深くくくくく 女 小鷹

草紅葉



菊

葉さくや味もて甘くしては露  
けしき灯さくちかおしく菊の香  
菊の鳥や 露坊へ通ふ草の酒  
いつのふに移るやけしきやみ露の菊  
是かこの菊の朝露の秋ふじ  
き花さきとて人の花梅もさ  
身とけしきの花をかきやめ嫌  
溜桶の水くさきさう梅もさ  
世らさき花かきやめ嫌  
くさき花や本州ちかきる浦の町

梅彦

梅棹尾

亀鱗

珠山

明良

廣陵

聖万

葛也

文貫

女彦

梅嫌

末枯

抽

末くぬや野まやうぬ 砂俵  
末枯や向もさうさぬら新家  
くさき花や田見流さうさの体  
末らさきや頬白ふく顔ふ小酒店  
恒志の抽も白ひくさうさのる  
けしき花さくちかおしく菊の香  
月さけのさきさき花さく抽り白ひ  
桶さうの秋さくちかおしく赤さき抽  
芝草のさきさき花さく抽の白ひ  
岩山のけしき花さくちかおしく本宮さき

茶静

白光

兼山

一肖

万壽文

菊也

布席

魚さき

みさき

鳥酔

木實

下



りやや移をむく板の 實 普記

本瓜の實のこぼるる月夜くさ 薤雲

味くいとまふおそくお本実の 衣丁

隣ても庚申まじり本実ちる 南井

梨子 梨をむくやせらの月のききあふ 東陽

もやあふくはあまのそけい 可丸

栗 夜すくひきよハちきく 新の栗 草圃

栗を六ふ山路くあやや 弓雄

お後てくくくや栗をくひ 菅六

あ栗やうくおけのひきくも 阿方

桂

川あよあけさせうおく 百翠

少くくむくまきけや 推の石 吐雲

推の實よくあまのそけい 吐雲

新の嘴くむけてく引ぬ推の雪 五繩

推のまやハロくえく 瓜上 茶静

あ移わまふ外移り新あく ちき

菜黄

菜黄くくや小ももまの 白雄

くこの息をせりく 山の口 炒扇

けく海に菜黄のまをく 輪之

くこのまやあふ牛ま 雪彦



通州實

杖伐よりのたぬきあけむの宮

晋峰

通草急い日わつみや山の町

元二

菌

あつみやびかおしや菌うら

鳥明

そのいぬ人切きそ菌物

得雨

様方や菌物うは古折菱

孤山

協の菓よりけをむや菌物

鷺洲

小松ふむ及のまきよきのこ

亀掟

松露

松露くもや新よ及所爺の家

右則

はきりのくく入りくお松露き

守三

六代のうきやうの松露代

樂只

落水

二三尺程のゆきやかき

月溪

ワラも免ううき落し水

峰友

系堂の松世まうや落し水

孤山

落し水夜々増えやうき

黙翁

崩築

崩れゆく築まき木

枚窓

とかま矢の流まき木

季音

山骨のやまうき木

宇橋

きりもほき木

木不

細代打

罪にき場をうき木

成美

系うき木をうき木

掉歌

下

下



行秋

わが秋おねの年貢をかかるとけり  
けり秋の塵もあはぬこそよふ  
ふのつらぬ草の末葉よ秋をけり  
まき叶の下葉や秋も二三日  
ゆく煙をたきけりあはれ葉汁うふ  
けり秋やうきく畑の家よりけり  
馬下こころさうりけりけりけり  
あはれ母のいつくもゆく情けり  
かりひきおとすもあはれけり  
けりあはれけりけりけり

草夫  
省吾  
与人  
仙骨  
雪人  
右月  
儿董  
春鴻  
壹半  
咲菊

暮秋

乙亥の尾よんり秋よ  
ねり居ぬ時の家や九月  
あへ出た運のいえく九月  
あはれ袖あはれ九月  
あはれ日あはれ九月  
あはれあはれ九月

万里  
みち  
茶藝  
列二  
菊塙  
玉光

九月書

下

四十五



俳諧新五百題卷之四

田喜菴護物輯

〇冬之部

初冬

くひやわニツ子ノ著くきく

曉臺

初きや城下の所のいこま

みろ彦

くろみやとくろくまわり

可盈

いこなく冬のまゝる茶木

仙骨

くろみやとくろくまわり

太郎彦

十月

十月ハ兔ノ積ノ日有らぬ

雞路

十月のてまよとくわすね葉

百示



神壹月

十月や芒の中は水のたぐ	素樸
十月や朝日のくは麻の角	茶靜
十とや結ぶおれははるれ猫	玉光
死るるまねくさむし神を月	重厚
小まぬれも何やうくさ月	祟兆
日のゆるる古鉄をせや神を月	余年
まふくや木実うはあり神を月	名植
峰のたご松をせ低し神を月	東一
灯もくくく無上戸をせし神を月	吟言
草も黄子をくぬ葉子の神の苗を	谿翁

神苗主

神迎

酒の魚は余風くくくく神の苗を	女ははも
市神も苗主をあらう朝のる	芳居
神の苗を平家よまきぬ家物や	護物
一月の夜葉も掃く神を月	蝶夢
油ひおく山をせむ掃く神を月	樂水
神迎牛の勢をかきまきく	一菓
山里を早くもまきの元神を月	棧車
いつのけまき破ハ死くく怪子備	夢南
女房のたぐらやまをまきく神を月	紙山
極子溝くくくく白ハおくくく	石芝

怪子講



玄猪

升市まぐけい鳥や堀子講 春来  
 米二升小萩や中めの舌杖うか 蓼多太  
 口上のくれうききおめさう歌 吐月  
 玄鹿芽をふくや舌杖の門のそま 万壽友  
 ちくこをち白さ笠出寸舌杖やく 詠帰  
 梅もさく穰多う舌杖の日初うか 宇橋  
 達丁もぬ後うきききり宵うき志 蜂を  
 達丁もや南うの今計の中 二  
 達丁もや人のえぬ五日月 午心  
 達丁も山吹もーむー 三兔

達磨忌

大師講

達丁もやとふていさき碓の白 奈静  
 了り尾杖繩も付ぬえまち少講 喜齋  
 抄子とく辞やあ〜外大少講 宇橋  
 恥〜とく多守むらうや大少講 龜丈  
 血脚も片るき具つや大少講 玉蓮  
 祢直殿をいりききまや大少講 みち彦  
 八玄湯も繋おら〜十夜〜 月化  
 曇り曇白〜十夜の講う〜ら 蕉雨  
 名の〜らけき〜十夜〜 露竺  
 き〜ら〜白つや十夜のお〜き 女 ちんき



御余講

梨子くらの庭くわいや今武寺

雨塘

酒樽の車引けり馬今儀

茶靜

侍者講や傍よむらさきおのふ

一肖

脊戸町や今武のむも一さくら

護物

さくらくわいも椿も序くわい

柳丸

けりーの日記くわい馬今儀

泉北

亡八屋の操れくわいや馬今儀

完来

歩高向くわい今武のむも一さくら

成美

隣ハ子のまらけり馬今儀

文貫

旅付くわい今武のむも一さくら

檜良

芭蕉忌

今ハ昔くわい馬今儀

無説

今武のむも一さくら

みさ彦

公孫のむも一さくら

挂裡

りくのこの馬今武のむも一さくら

護物

形も今武のむも一さくら

湖山

風くわい馬今武のむも一さくら

百嬰

眞のむも一さくら

南井

山崎のむも一さくら

梅溪

松くわい馬今武のむも一さくら

文晁

生海前下馬今武のむも一さくら

玉屑

小春

小六月

生海前下馬今武のむも一さくら

玉屑



朝の日の一輪す——小六月 可友  
 杵舟のくくこそそく——小六月 北真  
 中十日月もぬく——小六月 如松  
 仲波の夜氣もくもくや小六月 朱木  
 冬の日もさすや蠟燭の菴の猫 樗堂  
 田舎のくやまの朝日の水もくも 足彦  
 鱈のすむ里のあふぬやあふぬ 東岫  
 芝草の朝けもくもくもくもくも 呂律  
 冬夜の夜や菰もくもくもくもくも 士朗  
 鳥羽ののろろ面白き冬夜の夜 冬彦

冬月  
 冬夜の夜や針もくもくもくもくも 雪雄  
 冬月のあやまのさのさのさのさのさ 木海  
 冬月のあやまのさのさのさのさのさ 護物  
 冬月のあやまのさのさのさのさのさ 琴洲  
 冬月のあやまのさのさのさのさのさ 三喬  
 冬月のあやまのさのさのさのさのさ 李冬  
 冬月のあやまのさのさのさのさのさ 真風  
 冬月のあやまのさのさのさのさのさ 萬籟  
 冬月のあやまのさのさのさのさのさ 士朗  
 冬月のあやまのさのさのさのさのさ 澧水

初時雨

立時雨のあやまのさのさのさのさのさ 澧水



時雨

石蕨のあはれよこのえきわ初時  
 いとよのあはれよこのえき初時  
 このあはれよこのえき初時  
 志くはあはれよこのえき初時  
 さゆのあはれよこのえき初時  
 時雨のあはれよこのえき初時  
 志くはあはれよこのえき初時  
 はるのあはれよこのえき初時  
 此のあはれよこのえき初時  
 叶けらあはれよこのえき初時

茶辭  
 玉光  
 太節  
 遅春  
 葵之  
 猪糸  
 蒲雪  
 鳥明  
 土郎  
 可都里

夜時雨

松風時雨

初霜

初霜のあはれよこのえき初霜  
 志くはあはれよこのえき初霜  
 夜半の厚雪のあはれよこのえき初霜  
 初霜のあはれよこのえき初霜  
 志くはあはれよこのえき初霜  
 このあはれよこのえき初霜  
 志くはあはれよこのえき初霜  
 初霜のあはれよこのえき初霜  
 志くはあはれよこのえき初霜  
 初霜のあはれよこのえき初霜

長高  
 士明  
 護物  
 乙二  
 芳居  
 豊岡  
 鉄船  
 扇暑  
 孤山  
 椿年



霜

有明の照らけりけり霜の  
茶もくけや雀もはく雪もくけり  
かみ家の人目もくけり雪の  
そよもくけり日の光もくけり  
庭もくけり人の心もくけり  
さけさの光もくけり雪の  
満月の光もくけり雪の  
柳の光もくけり雪の  
梅の光もくけり雪の  
をくけり雪の光もくけり

千丈  
斧杖  
壺羊  
羔水  
くん女  
昔阿  
衛足  
悦二  
梅塙  
護物

霜夜

初雪

初雪の結もくけり雪の  
さけさの光もくけり雪の  
さけさの光もくけり雪の  
初雪の結もくけり雪の  
さけさの光もくけり雪の  
さけさの光もくけり雪の  
初雪の結もくけり雪の  
さけさの光もくけり雪の  
さけさの光もくけり雪の  
初雪の結もくけり雪の  
さけさの光もくけり雪の

養昌  
椿堂  
ノ且  
音峰  
茶靜  
吳光  
永枝  
旬光  
石雞  
雪三

木枯

木の葉もくけり雪の  
木の葉もくけり雪の  
木の葉もくけり雪の  
木の葉もくけり雪の  
木の葉もくけり雪の  
木の葉もくけり雪の  
木の葉もくけり雪の  
木の葉もくけり雪の  
木の葉もくけり雪の  
木の葉もくけり雪の  
木の葉もくけり雪の

雪三



冬さき

木枯や 鹿ももつた町を  
こころや ぬく月をよ  
冬さきや 足さきゆ 貝の壳  
冬さきや いくさきまきさきの奥  
冬さきや けさきえくさき  
冬さきや けさきえくさき  
冬さきや けさきえくさき  
冬さきや けさきえくさき

棹歌 荳卵 南井 栄子 園更 祇徳 蘿雲 阿さ女 春鴻 存阿

冬枯

寒

冬さきや けさきえくさき  
冬さきや けさきえくさき  
冬さきや けさきえくさき  
冬さきや けさきえくさき  
冬さきや けさきえくさき  
冬さきや けさきえくさき  
冬さきや けさきえくさき  
冬さきや けさきえくさき  
冬さきや けさきえくさき  
冬さきや けさきえくさき

みき彦 二川 護物 袁丁 巢也 旧友 真彦 旬光 壺山 訓山

月

下

五十三







冬構

佛壇のひしを兼るさし山  
竹の青のましく文ゆく巨燵  
おろしや巨燵をのけし焚き木  
祝まきしし中りりあうまえ  
徐木千人日有なくあ構  
茂積むく薪のしらもあ構  
あまき山とまんとりそり  
おろしよお葉上葎のふゆ構  
焚き木あしぬ本集やあも  
おろしハニとらりし冬も

冬籠

木  
燵  
孤山  
木火  
屏魚  
葎丸  
車両  
菊塙  
百池  
警測

伊勢

埋火

冬籠けえうらうら  
とくさのまきぬ小庭やを  
おろしよお葉上葎のふゆ構  
焚き木あしぬ本集やあも  
おろしハニとらりし冬も  
埋火やあしぬ本集やあも  
おろしよお葉上葎のふゆ構  
焚き木あしぬ本集やあも  
おろしハニとらりし冬も  
埋火やあしぬ本集やあも  
おろしよお葉上葎のふゆ構  
焚き木あしぬ本集やあも  
おろしハニとらりし冬も

其成  
袁下  
瘦菊  
とら  
木友  
茶静  
太郎彦  
儲史  
虚舟  
音峰

火桶

伊勢



火 鉢

一とくあふく桶を出す家越と  
おかしはく又ぬく桶の扱ふる  
いろくくの袖口とゆるく結う  
何くもむくきく結う大と法  
白雪と舟まじり客のそ新  
山伏の鼻つゝ結う田舎裏  
おしけふや田舎裏まじり客  
夜吐の古のめくくいろく  
扱ひける家うち出れよ結う  
扱ひくむ子年株の扱本と

玉珂  
水直  
女  
碩布  
茶藨  
詠師  
松社  
芳居  
護物  
昌作

田 舎 裏

滑

炭 竈

櫛久のくけり年めく結う  
壁越するも志くくや櫛の  
小きやうく扱ふる客雪の櫛  
扱くくやふく魚扱る魚と  
炭竈ややく人くく扱  
すく竈や罪くくおと  
炭竈やきくく夜り扱  
炭竈のくくや雁もか  
すく竈やうく浮世の  
おけり炭竈のけり

椿海  
氷佳  
新賀  
竹山  
音蘿  
みち彦  
雪雄  
観海  
玉珂  
椿堂

炭











枇杷花

山寺むかし日よ研ふさきよあゆむ  
くさし花もさきふくはくしむそのさね  
かこもて木了甘えや枇杷の花  
枇杷のむさくやぬちちぬち  
さき峰さけくさくさむさくむ  
四月うぬくくええ枇杷のむ  
葉の糸の十株も並ふ日南くさ  
もくさく其けハ持ぬ葉はくさ  
葉の糸の流し人もあきくさくさ  
葉の糸や名をうけくさの町

一蕙  
佛仙  
いろ夜  
咲菊  
蘭く  
國村  
若翁  
三三交  
東湖  
車両

茶花

梨花

葉のむさくさくつゆく自刺  
くさくつておらてくさくくさく  
干稻のぬくくさくくさく  
井むくくさのくさくくさく  
路くさく年のまくくさく  
くさくくさくくさくくさく  
柳くさく人ほくさくははくさく  
ゆのぬくくさくくさくくさく  
くさくくさくくさくくさく  
何さくくさくくさくくさく

護物  
瓦全  
耳谷  
東峨  
八朗  
江川  
泉兆  
布雪  
鳥旭  
三和

冬柳

柳

柳







枯尾花

す満切の口むきくうろろる露のた  
借主のほ麻き一やほまのたを  
ふ藤原や積まむくも共のむと  
豊く人ふまへふ一やそ 芒  
そえの日何一をころん 芒うか  
ものいそぬ人ふ何のなきあすそ  
枯芒若遊ひ出す 小むうか  
くきせいとけりふ 芒もくおれくうれ  
そいくの月より月のうれ 露  
ふき尾花をわけてうけさす 蓬い

棹歌 波うく 羨じ 杜英 栄枝 子明 みど 禾木 以湖 李冬

枯芒

冬芒

枯萩

枯菊

をぬきそふふぬ 暑くや枯尾系  
枯くうろろくく 尾花くくく 暑  
山はふまを繋の尾花枯より 暑  
うれ尾花日の入るのほくまう 暑  
うれくや波うく かくさ萩のあき  
夜の萩萩くまきも枯くけり  
萩の枯の袖くほくか 枯まう  
枯くまそぬもつ 萩のゆふも  
枯るまや葉てほくくさく井戸  
花かろく火く 暑く菊の枯枝く

蓬朽 東一 耕雪 呂律 曉臺 曠翠 卓池 禾木 和夕 且翠







蕎麥川

まゝや根すまきく末の汐をけ  
麦舟や池の家鴨の久はまて  
かへ勢の代もくもや麦まま  
そと川よささくそと滝のうへ  
蕎麥川や終つてもあつ赤人ほ  
笠巻のハ旅人あつ大根引  
船頭のもよりのぬ日を大根引  
暮き大根よきくそよの門  
世移つても子も終つりや大根曳  
大根引やうハ船白りよふく

白雄  
蕉雨  
双湖  
今度  
年緒  
其堂  
杜葵  
禾木  
梅溪  
淡水

大根曳

蕪

芥菜

葱

おのひうう倉のうららの瘦  
おもやや草のうららの序ま  
おくうまうはハ船やうぬり  
いつくく朝の月夜う草をま  
百すううはまあれうり  
みの舟にうけ菜をうまうま  
耳きあのうけけるや約か  
うき人のまや芥菜まは  
かー菜けるのうまハ  
古うちや葱引出さかく

白雄  
みま  
蒼乳  
志け  
何丸  
白雄  
春鴻  
其芳  
太郎  
来艸



菟の香や唇のよきおしはるごとく  
 葛けきや刈萱折くべし  
 るふあゝ朝日うつやゆめの汁  
 逢古くよきぬあつの白きく  
 十月の旅のいづる木葉ふる  
 きあきて流枕くす山のくさ  
 ちる木葉恐るんまひ向まゝまひ  
 走るれゆハ木葉ふくぬて葉まじり  
 来りぬくちのうつくし落るの中  
 ちり子とすく志はあや葉まじりく

日居 井元 魚と岐 亀丈 故友 掉歌 五繩 為梁 田都喜 蓬杣

落葉

木葉

さかきさやさのまきくはる料理くさ  
 落葉は正宿や婿きりの苗  
 る志く馬の尾まはる落葉く  
 清き冠の水の白よきわちくち  
 ちる木葉まきくぬくも老る子  
 ちるやみなら等家くまもちるぬれ  
 落葉ともいぬぬお葉り常くぬ  
 形夕のあけれ子とくちくもくち  
 かき葉くさる片敷けやき木立  
 爪後の来て鹿いりぬぬ木立

凡二 松羅 女 辰七世 みち彦 歩箭 石雞 樹生 茶陵 旧友

紅葉散

冬木立

下

六



善きもよくてよくも然しとてふれど  
 鹿のきくもきくもえりくもふと  
 冬野 抱てゆく鶴かくや冬野系  
 瘦まゆのやとてくれあす冬野  
 水まのふけ日有まきー冬野  
 融のふきとくもくも冬野系  
 夜よ入るも冬野系  
 人家も冬野系

女は也  
 草芝  
 梅壽  
 衰丁  
 右雄  
 古玄  
 菊歳  
 燕村  
 雪雄  
 瘦菊

枯野

福書のふとくもろす枯野  
 冬野 かくもや秋波流むくも古人家  
 くらもや馬の通りこも冬野  
 枯野や入口のくも冬野  
 冬野の山たよもは冬野  
 かくもやもくも冬野  
 冬野の山守むくも冬野  
 かくもは冬野

茶静  
 葵市  
 訓山  
 一巢  
 竹岐  
 嵐丈  
 梅閑  
 菩野  
 千枝女  
 さら雄

折野

冬山

下

五



冬 田

冬 田 冬 田 冬 田 冬 田

白養

冬 田 冬 田 冬 田 冬 田

芳行

大の子 大の子 大の子 大の子

春来

板 板 板 板

護物

冬 川

冬 川 冬 川 冬 川 冬 川

五明

水 鳥

水 鳥 水 鳥 水 鳥 水 鳥

み彦

水 鳥 水 鳥 水 鳥 水 鳥

し二

水 鳥 水 鳥 水 鳥 水 鳥

居夕

水 鳥 水 鳥 水 鳥 水 鳥

草均

鴨

鴨 鴨 鴨 鴨

楽山

鴨 鴨 鴨 鴨

未耜

鴨 鴨 鴨 鴨

芙九

鴨 鴨 鴨 鴨

乙二

鴨 鴨 鴨 鴨

弄山

鴛 鴦

鴛 鴦 鴛 鴦 鴛 鴦 鴛 鴦

川二

鴛 鴦 鴛 鴦 鴛 鴦 鴛 鴦

車蓋

鴛 鴦 鴛 鴦 鴛 鴦 鴛 鴦

萬籟

鴛 鴦 鴛 鴦 鴛 鴦 鴛 鴦

一肖



雁鴨

谷を穿るの二羽つれを以て

護物

厚鴨の啼ぶるりよ宵の

乙二

厚くもの征はる色も

太郎彦

一鴨の畔持合ふるる日

雪彦

千鳥

糸耳の千鳥をさす

みち彦

鶯のさすは啼く

伯先

川千鳥のさすは啼く

介立

そのさすぬ夜を標ち

南鶴

瓢きくさうす

仙舟

鳥

鳥や竹の葉はく

蝶夢

あつはくや仇は十夜を啼

春鴻

鳥もかゝは枯るの体も

冬彦

罪のあま鳥も昼の鳥も

竹児

鳥もくさるあつはく

蕉雨

小 兔

木兔引る身も大月の月

乙二

みつくの字鏡てあつはく

宇稿

木兔やえゆく里の

茶靜

くはくや合ふそ夜の

木木

まら苦もさすふ昼の

葛三

まらける木もあつはく

竹児

寒 苦 鳥



鷓鴣

山柳の木のすそめぬえり苦も  
中のかよはれお花の影も  
一羽も書かばついでを  
一羽の春阿ふと信を  
おうれゆきやうの影  
みそきお出口の本  
片やふかむら山の  
りきれぬハ梅よ雀も  
さよえーハもけおく

菊後 苦居 乙二 葵亭 北元 朗光 一雨 龜夫 我山 ひと長

冬雀

冬雁

冬鳥

冬鳥のさうとく  
毎てお入うた  
原のさうとく  
年におまも  
おれへお入うた  
田ハ鶴よ  
あつた  
新風や  
冬鳥のさうとく

輪之 南井 竹馬 久藏 みる彦 三津人 鱸江 蘭 白度 白雄

冬蠅

冬

冬



鯨

冬の夕暮に付の葉木を  
稲垣や夕日垂るくく  
世の中をくくくくく  
多の縄人多くくく  
一粒のくくくくく  
一のものも二の緒  
鯨切をくくくく  
鯨さけて作の中  
新市や河孫  
ふく一ツまとく

玉珂  
素地  
文貫  
巴丘  
衰丁  
詠掃  
杖技  
白雄  
吐月  
乙二

河豚

鯢汁

鯢くくくくく  
刺息を足  
君々の人  
鯢くくく  
大津の鬼  
ぬくく  
杜父魚  
くくく  
杜父魚  
くくく  
生海龍  
くくく

衰丁  
くく度  
篤光  
阜二  
東一  
旧友  
孤山  
一月  
護物  
春鴻

杜父魚

生海龍



細代守

をくくあへーがくくまへくくあへ前か  
あへ門へ投へんくりかへくくか  
ゆりくくあへくくあへくくあへ前か  
浮あまこ月の本葉よ對へりく  
ちくくあへくくあへくくあへ雪の杜崎  
石花ゆへ浪もくくあへくくあへ  
くくあへくくあへくくあへ二日月  
世くくあへくくあへくくあへ  
いへ杜崎や芦くくあへくくあへ  
いへくくあへくくあへ朝あへく

友因  
阜池  
扇和  
麻交  
保吉  
士朗  
掉歌  
栄枝  
兩交

杜崎

柴漬

かりよるあへくくあへくくあへ  
いへまへを焚く山くくあへくくあへ  
射ぬくのかへくくあへ細代守  
いへくくあへくくあへくくあへ  
いへ漬の志何くくあへくくあへ  
衆の集をあへくくあへくくあへ  
いへくくあへくくあへくくあへ  
いへくくあへくくあへくくあへ  
夜真川や大のくくあへくくあへ  
いへくくあへくくあへくくあへ

芳竹  
東一  
魯大  
孤山  
乙二  
玉珂  
さき雄  
護物  
蕪村  
曾逸

夜真曳

下



ワタシや水篋をかき夜鳥鬼 一肖

霜月

霜の月の霜つるねえよふあさふ 玉珂

あけ月や首照つらふ山り 彼 羅月

あけ月ハ南丁の雲の白如く 左学

あけ月やねむくしあめ山家 夢南

冬至

あけまふあけまふあけまふ 牛彦

刺 息 首 照 つ ら 山 家 南井

あけ丁あけまふあけまふ 茶静

日のくけふふ二の峰へるあけまふ 竹馬

髪置

くちねのあけまふあけまふ 狐山

かきまふあけまふあけまふ 九簾

神楽

あけまふあけまふあけまふ 阿侍

あけまふあけまふあけまふ 万祀

あけまふあけまふあけまふ 菊裡

あけまふあけまふあけまふ 岐山

あけまふあけまふあけまふ 美也

子祭

あけまふあけまふあけまふ 州夫

あけまふあけまふあけまふ みる彦

あけまふあけまふあけまふ 律山



吹草祭

子之能の法も換よ子持人  
もろくも吹草もあもるる

護物  
輪之

あまの草をまはしとてふりしそ

孤山

吹草場もあまの夜更男自立の灯

護物

御火焼

あまの焼やまの法もあまの法

一草

あまの焼の長くも鳥や青金足赤

未木

あまの焼の法もあまの法

雨蛤

空也志

あまの焼も持てあまの法もあまの法

首三

あまの焼もあまの法もあまの法

空阿

あまの焼もあまの法もあまの法

碩之

鉢敲

柳の葉もあまの法もあまの法

真栖

あまの葉もあまの法もあまの法

松急

あまの葉もあまの法もあまの法

虚舟

あまの葉もあまの法もあまの法

鵬翅

あまの葉もあまの法もあまの法

護物

寒念佛

あまの夜もあまの法もあまの法

鉄船

あまの夜もあまの法もあまの法

万壽友

あまの夜もあまの法もあまの法

雉扇

あまの夜もあまの法もあまの法

曲阿

あまの夜もあまの法もあまの法

石芝



報恩講

しまろお付くそく那く内雪月  
 馬さしう 決まらうさよ 雪月  
 うくと 魚住 申く 雪月  
 糸まおんて 布衣流下るや お雪月  
 及くこの 業さの 雪月  
 敵さきの 幕さ 夜半の 雪月  
 白くもくと ぬぐり 雪月  
 呉布の 雪月 比ねら 雪月  
 菘中や 雪月 待  
 雪月 雪月 雪月

貞居

雪

雪見

雪のりや 雪月 雪月  
 くはしを 雪月 雪月  
 片里や 雪月 雪月  
 雪月 雪月 雪月  
 雪月 雪月 雪月  
 雪月 雪月 雪月  
 雪月 雪月 雪月  
 雪月 雪月 雪月  
 雪月 雪月 雪月

雪用意

雪國

下

三



夜雪

舟よりの馬くくしつる雪んが  
梅子かゝりてもる雪んが  
縁本りてあはる小きうな  
江の雪や 春らるや夜の雪  
さしきや二夜目の雪の東風  
後つらぬれくもぬ夜の雪  
聖もあまのそとゆや雪の船  
河川り流るさびし夜の雪  
宿りせく刀かけ出は雪吹り南  
暁のやをりくくくえ雪重の山

平馬  
家鷄  
かゝ女  
宇洋  
五芳  
禾木  
李峯  
茂木  
蕪村  
保言

雪吹

志卷

雪の菓こころぬる雪吹り  
みの虫の枯葉まきふを吹り  
恒の井北山吹りぬるふきさ  
雪志まきくくくもぬや車牛  
枯葉し川多柿や雨しを  
雪志まきくくくもぬや車牛  
消まゆそを雪のきりくもなる  
雪志まきくくくもぬや車牛  
名前の水枯くくくもぬや車牛  
久くくの不きくくくもぬや車牛

巽我  
起石  
利根吉  
土光  
女七良  
炉扇  
乙二  
嵐兆  
右月  
梅壽

霰











鷹

省の煙やすえをむげりる夜  
春鷹  
春鷹なくやけりくる省尹の山  
知及  
少くむそえらるる鷹の居をり  
輪之  
川上へおろしけり  
焚槍  
新川やえりやの件をきつ  
白雄  
新鷹のそえり  
乙二  
春鷹道つたるといふや山の月  
萬光  
春鷹なくやけり  
文晁  
むくりや  
護物  
とむか  
無説

雁鳥特

燈

鳥叫

山さうく  
乙二  
春のそぬとのう  
扇暑  
うたえの月  
祇白  
たつは春鷹の眼やさ  
枕生  
鳥叫は  
春鷹  
鳥叫や  
孤山  
鳥叫は  
一肖  
鳥叫は  
護物  
落草  
春鷹  
落草は  
双湖

落草

春鷹 知及 輪之 焚槍 白雄 乙二 萬光 文晁 護物 無説 乙二 扇暑 祇白 枕生 春鷹 孤山 一肖 護物 春鷹 双湖



カ草

その香はまよふるやちうり草  
草さしくまよふるはちうり草

石雞  
菊

師走

日あつとつきの海の心あまき  
まよふかのやあまきのまよふ心  
有明の香あま入り 味あまき  
香あまや人の味あまを海のつる  
りちうり船のつるも師走の  
秋あまのかきこひさし川あまき  
あまきとて羽織りあまき川あまき

表丁  
孤山  
茶靜  
菁丸  
松國  
石芝  
確急

川

臘八

貫之エト戸の海法を川あまき  
臘八やまよふ人ほろあまき之味時  
臘八もあまきとて旗手は男う形  
臘八や峯う形日の後あまき  
丹くまよふ臘八もあまき何故  
傍あまきかきこひさし 味あまき  
衆あまきあまきとて雪のうつけ給  
あまきやまよふあまきとて味あまき  
あまきやまよふあまきとて味あまき  
柳のあまきとて味あまきとて味あまき

護物  
大擗  
茶靜  
檀立  
一肖  
曉臺  
柳儿  
諸九尼  
夢南  
護物

佛名







乾 魁

卯の白くそふく口も赤き色某々し  
 此の神もるゆへに一人某喰  
 うる魁やこころもよる人の志  
 乾 魁も水水り浪り活りへま  
 むさくくわ乾 魁もく人 望の行  
 乾 魁けりお茶をさく家の境も  
 年のくくふあつて信をくく日のせき  
 道のくくふあつてあより青むくく  
 ね賣もあぬまきくくせぬく  
 年のくくふあつてあよりくく

五明  
 春鴻  
 車蓋  
 士朗  
 乙老  
 柳儿  
 士朗  
 怪言  
 素藥

年内立春

追 儼

於 賣

節季候

くく越りぬるもさくく 祝 計  
 鬼を追ふあつてあよりくく田  
 くくくくくくくくくく年の豆  
 くく所や年内くくく 於 賣  
 二度くくくくくくく 於 賣  
 さきくくくくくくく 於 賣  
 猪川くくくくくくく 於 賣  
 節季候やあつてあより小狐まき  
 節季候医者ものくくく人のくく  
 くくあつてあよりくくく 於 賣

みち彦  
 葛三  
 玉光  
 南井  
 巴人  
 輪之  
 泉之  
 玉珂  
 孤山  
 石芝

下

六廿



焼等

煤掃

餅搗

焼木おろし花うろしききん  
 三古炭  
 焼あまのりおろし焼あまのり  
 梅溪  
 焼くくやうの家の蘇のやう  
 三津人  
 煤掃や川をくおろしお家の  
 興山  
 す、掃くをきき四隅のけし  
 茶静  
 煤の家鴨一日をくしつけり  
 美く  
 煤のりや五反屋をくし焼の代  
 難隠  
 をくしおまのりおろしやちのり  
 全反  
 餅つきや梅をくしおろし  
 梅兮  
 ちち番や例をくしおろし坊  
 帚半

衣配

年市

年木

下  
 衣配  
 年市  
 年木  
 ちち竹の香もちち茶も餅のり  
 子ち雄  
 湯も世よりくくくくくくくくく  
 吐月  
 嵐雪うきあのちちや衣くくく  
 平角  
 子ぬぬ漂ぬの信の沙汰もき守  
 東島  
 年削る強る買んくれの市  
 全反  
 余さぬや旅もも免も年の市  
 白養  
 取返の草は代をくし年の市  
 く免  
 年の市強く面ちちちぬや  
 知昨  
 もくくくくくくくくくくくくく  
 赤川  
 年のすくくくくくくくくく  
 鶯邨



幸用意

大竈の入り年本の幣々  
 行兎  
 年本はむらぐらやきりの杜  
 和調  
 鶯の鶯うさるあは年本  
 年守  
 子う家の洗濯うあやと一用意  
 吟  
 鄙うや掃一掃も年用意  
 振蕙  
 人うさるあは家のう用意  
 宇橋  
 年忘度中の幣をう用意  
 揮  
 うさるあはう用意  
 春  
 年うこれ行ハるう用意  
 太拍  
 二夜うハるあはのひう用意  
 月守

年忘

古曆

春待

春

古曆十日の菊う用意  
 夢南  
 曆古ー深器う泥の巻はあて  
 可曆  
 うさるあはの儀う用意  
 栄枝  
 年うこれ行ハるあはの儀う用意  
 柳  
 春ま川 やうさるあはの儀う用意  
 みる  
 春を待眼う用意  
 紫  
 一うさるあはの儀う用意  
 紫金  
 春ま川 やうさるあはの儀う用意  
 石海  
 四月をう用意  
 玉光  
 春のくるう用意  
 存義







大晦日

年夜

除夜

小夜歌の柑子さくらや大晦日  
 むつしや年のほまきめの海老の蟹  
 かいふの煎り菓るそ年の宵  
 年の夜や業ふ付るる 松 養  
 くのあやちの旅人出て歩り  
 年の夜もかきけ 白子うた良冠夫  
 ゆくやとんやんくえり 除夜の梅  
 ねるもや除夜の松も来も人  
 来ぬと別れ去るも 除夜の文々る  
 又守しよも別れよあしり 除夜の梅

詠帰 一哉 女彦 乙老 鷗里 瘦菊 標良 保吉 孤山 雜物

春

追加

暁の柳 その日をまきくさくさ  
 うらひさや ねるものん ねりし歌  
 花よまふのうけうさ ねる福寿州  
 天地の呼吸若川 梅の花  
 不盡くまて魚をさけて 林  
 柳の目やねらうものぬ人の友  
 春の芽うみのふの柳もこえぬ  
 春の花のやハ ねるくちをさる  
 花もも流る早うし子 叔

村濃 亀女 栖霞 雨休 蛙井 佳夕 六音 新賀 雨休

夏



秋

五月もや葉の味くくろくまのふり  
鹿の子のききもぢぢりりしる壁  
このまきき五合の室やあつ氷  
昔清おていふめよふよものさびし  
夕まやふとぬりしもくまよの用  
酒早の熟くしんじりきくく  
世の中ハ味くくてしよまききの味  
さう森やまのハ森のさう  
つらやぬぬれいしりやあの中  
鈴白や森をん下のまきくく

楓所  
其毫  
杜成  
六音  
山花  
一賀  
得我  
再可  
百里  
佳續

冬

虫の雨様雪の思ひが  
蓮の宮此水もききしるの月  
破刺家のこもをまきとる打姑  
秋のまのまのなかより軒まら  
泥亀をまきよきききき  
麻苗や人のこもをまきとる  
この中のまはまのこもをまき  
乃真のまよらまきまき  
しらゆのはまよるまきまき  
白あまのまをまきまきまき

萬山  
雨休  
村濃  
六音  
萬山  
百里  
得我  
雨休  
乃十  
六音



江戸本石町十軒店萬笈堂英大助藏板俳書目錄

○類題之部

俳諧發句五百題 春秋庵白雄房撰 小本二冊

同 新五百題 田喜庵獲物撰 中本二冊

同 新々五百題 全撰 全二冊

同 名所千題集 全撰 全三冊

同 今人東風流 洞海舍凉谷撰  
一具庵一具校 全二冊

同 十方向集 全撰  
全校 全四冊

同 續故人五百題 一具庵一具撰 小本二冊

同 類聚 八采園寥松撰 中本二冊



俳諧今人發句集 永木園校輯

中本二冊

俳諧發句類題 全撰

全二冊

同 古今撰 蕪菴蟹守撰

全二冊

四季發句帳

全一冊

白乳七五三 艸丸大人輯

俳諧發句新類題 六合庵万里輯

中本二冊

○句集之部

嵐雪句集 一称玄峰集

全二冊

其角句集 坎窩久藏撰

小木二冊

蓼太句集

全六冊

吏登句集

全一冊

巢兆句集

全一冊

完來發句集

全二冊

梅翁宗因發句集

小木二冊

太無發句集

存義發句集

獅子眠發句集

柳居發句集

糗林瓶 甲斐州丸集

葛里句集 連句の集

全一冊



護物七部集  
乙二七部集

小本二冊  
全二冊

○季寄之部

戀の栞 葎聖庵北元著

小本二冊

俳諧手挑燈 一名俳諧初心手引草

中本二冊

同 掌中小本

全一冊

俳諧四季名寄

季寄大威のまゝに  
且名所を附録し

寸珍一冊

俳諧袖鏡

一枚撮

季寄便覽

一枚撮

のくもあそび

横本一冊

俳諧通言

小本一冊

○文之部

新編俳諧文集

あつた名々の  
文をゆつむ

全一冊

俳諧變躰一覽

両面一枚撮

袖定規 表俳諧定座變體之図

七於集そのみ古摺依袖の變化あるを  
三於俳諧の自互と一自不見や  
定座引合せ圖

俳諧鰯

自初編今天保迄至凡  
編

○掌中寸珍物

編纂とあま  
集州とあ

掌中五百題初編

集州初編



同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二編	三編	芭蕉叢句集	其角叢句集初	二編	三編	嵐雪叢句集初編	二編	乙由叢句集	蓼太叢句集初編
集州二編	集州三編	集州四編	集州五編	集州六編	集州七編	集州八編	集州九編	集州十編	集州十一編

同	同	同	同	同	同	同	同
二編	新五百題初編	二編	三編	古今撰	猶追々出刻	〇假名遣物目錄	万葉用字格 春登上人撰
集州十一編	集州十二編	集州十四編	集州十五編	集州十六編			音使假字格 春登上人撰

万葉集と古今集の中間に居るといふ且れは古今集の中間に居るといふ  
本一冊



今古假字格 高井八藏大人撰

全 全一冊

對照假字格 長野美波面大人撰

全 全一冊

よきりおぬし

俳諧田舎の日記 桃隣大人閱

小本一冊

あし一本 田喜庵輯

横本 全一冊

今人附合集 禾木園輯

全 全四冊

芳草集 全

全 全二冊

俳諧發句故人五百題 松露庵撰

小本 全二冊

同 今人五百題

全 全





